

令和5年度地域づくり活性化事業費助成金活用事業

2024. 3. 11 BLUE CANDLE NIGHT

(実施団体:一般社団法人 Nr.12)

東日本大震災をきっかけに生まれた「ともしびプロジェクト」は、「忘れないをカタチに」を合言葉に、SNSを通じて誰でも、どこからでも参加できるキャンドルイベントとして、2011年11月11日に宮城県を中心にスタートした取り組みです。

震災から13年目となる今年も、3月11日に全国から青いキャンドルが灯りました。

今年はブルーキャンドル計6257本を全国に向けて発送し、47都道府県と6か国(タイ、インド、ドイツ、フィンランド、オーストラリア、アメリカ)から灯してもらうことで、大切なことを思い出すきっかけが作られました。

気仙沼市南町のキャンドル工房は、この日、誰でも灯しに来ることができる場として解放され、553本のブルーキャンドルに明かりが灯されました。また、気仙沼市内各地でも3月11日に向けてブルーキャンドルの配布が行われ、「忘れないをカタチに」する取り組みが継続して行われています。

これからもキャンドルを灯す活動を通して、人々の想いをつなぎ、時代や世代の枠を超えて未来への希望の灯が続くよう、活動を続けることとしています。

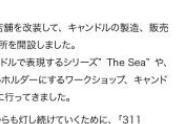
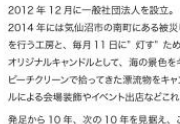
東日本大震災の記憶を 希望のともしびに変えて

今年も3月11日に、全国から青いキャンドルが灯る。

東日本大震災をきっかけに生まれた「ともしびプロジェクト」は、「忘れないをカタチに」を合言葉に、SNSを通じて誰でも、どこからでも参加できるキャンドルイベントとして、2011年11月11日に宮城県を中心にスタートしました。投稿を呼びかけるとすぐに、国内外から1000名を超える参加表明がありました。キャンドルの写真と一緒に、全国から追悼や応援のメッセージが投稿され、その優しき暖かい内容に感動し、励まされている人たちの姿に希望を感じました。



2012年3月にオープンした気仙沼の取扱店街の中にある乾物屋さんの倉庫に、事務所を置かせてもらい、地元の人たちと一緒にキャンドルの製作をはじめました。その作ったキャンドルで、毎月11日に、解体される学校や、船、線路や砂浜でキャンドルを灯し、キャンドルの写真を気仙沼の様子と共に投稿しました。活動に賛同してくれた人が支部を立ち上げ、毎月11日に各地で集まって被災地の情報を共有したり、ボランティアの窓口になったり、ハスナーを開催し新たな繋がりをつくる活動へと発展しました。



2012年12月に一般社団法人を設立。
2014年には気仙沼市の南町にある被災した店舗を改装して、キャンドルの製造、販売を行う工房と、毎月11日に「灯す」ための場所を開設しました。オリジナルキャンドルとして、海の景色をキャンドルで表現するシリーズ「The Sea」や、ビーチクッションで拾ってきた漂着物をキャンドルホルダーにするワークショップ、キャンドルによる会場装飾やイベント出店などこれまでに行ってきました。
発足から10年、次の10年を見据え、これからも灯し続けていくために、「311 BLUE CANDLE NIGHT」を発表しました。3月11日、全国から青いキャンドルが灯る日として、海と空をイメージした青いキャンドルを、送料のみで全国に届ける取り組みを開始。2023年には5827本のキャンドルが、全国47都道府県と5カ国(バミ、カンボジア、モロッコ、ハワイ、ドイツ)で灯されました。
追悼とは、故人を想ふことと同時に、生かされた私たちが何を想い、行動し、何を次の世代に繋いでいきたいのかに向き合う機会です。
ともしびプロジェクトは、キャンドルを灯す活動を通じて、時代も世代もあらゆる枠を超えて、人と想いをつなぎ、未来への希望のともしびを1000年先まで灯し続けます。

イベント詳細、ご参加はこちらから

SHOP	LINE

